

大規模な流行が生じた場合に備えた医療体制

1. 重症患者数の増加に対応できる病床等の確保

- 都道府県における重症患者の発生数等について検討
(新型インフルエンザの流行シナリオを示し、地域別の推計方法を提示)
- 都道府県における医療提供体制について確認
(外来医療体制、入院診療医療機関の病床数、人工呼吸器保有台数等)
- 上記の状況を比較し、地域の実情に応じた対策を検討

2. 重症患者の救命を最優先とする診療体制の充実

- 外来医療の確保
(電話相談事業の拡充、住民への啓発、診療時間延長など診療所との連携)
- 入院医療の確保
(定員超過の取扱い明確化、受入体制の把握と調整、妊婦等の重症者の受入体制の把握、県境を越えて搬送・受入を行う場合の調整)
- 医療機関、医療従事者等への情報提供
(院内感染対策の徹底、新型インフルエンザ診療の考え方・症例集等)

3. 基礎疾患を有する者等の感染防止対策の強化

- 院内感染対策の徹底
(医療従事者向けガイドライン、基礎疾患を有する者等を対象とした手引きの作成)

院内感染対策について

①医療機関に新型インフルエンザの院内感染対策に関する情報提供

※全ての医療機関に推奨する感染対策について、ホームページ上で公開、都道府県へ通達

<外来部門>

1. 全ての医療従事者が標準予防策に加えて飛沫予防策を実施する
2. 発熱患者とその他の患者の動線を分ける
3. ハイリスク者へは長期処方をするによりその受診を回避する
4. ファクシミリ等による処方せんの送付について検討する

<入院部門>

1. 発熱患者とその他の患者の病床エリアを分ける
2. ハイリスク者の診療を担当する医療従事者はサージカルマスクを着用する
3. ハイリスク者の待機入院を控える
4. ハイリスク者が入院する病棟への不要不急の見舞いを制限する

②医療機関に対する施設整備や物資の補助

- ・一般の外来部門とは分離した感染症専門の外来部門施設の設置
- ・パーティション設置による空間的分離
- ・個人防護具の設備整備

医薬品・医用品の確保

医薬品・医用品の確保

医薬品等の安定供給を図ることを基本に、発生地域におけるニーズを踏まえて、メーカー等との調整に努めるとともに、必要とする方々に迅速かつ十分な量が供給されるよう体制を整備。

(1) 抗インフルエンザウイルス薬の確保、供給

- ・流通用抗インフルエンザウイルス薬の供給状況の把握、流通在庫の状況を踏まえた国・都道府県備蓄分(4, 500万人分)の放出
- ・国・都道府県の備蓄量の公表、各メーカーの都道府県への納入前倒しの要請

(2) 医薬品・医用品の確保、供給

- ・医薬品・医療機器等の安定供給を都道府県等に要請
- ・マスク、消毒薬等の生産状況の調査、感染拡大の状況を踏まえた増産の要請

新型インフルエンザ対策関連物資の供給計画及び対応状況①

インフルエンザ関連医療資材	今シーズン供給計画	現在の対応状況
抗インフルエンザウイルス薬		
(通常流通用)		
タミフル(中外製薬社)	約1,400万人分 <small><8月末時点の在庫、約200万人分を含む></small>	<ul style="list-style-type: none"> ・メーカーに対し、今シーズンの生産量(現在のところ1200万人分を予定)の、出荷計画の前倒しを要請しているところ。
リレンザ(グラクソスミスクライン社)	約1,350万人分 <small><8月末時点の在庫、約80万人分を含む></small>	<ul style="list-style-type: none"> ・メーカーに対し、今シーズンの輸入量(現在のところ1270万人分を予定)の、出荷計画の前倒しを要請しているところ。
(行政備蓄)		
タミフル	9月末時点の備蓄量 国備蓄 約2,680万人分 都道府県備蓄 約1,550万人分	<ul style="list-style-type: none"> ・行政備蓄用抗インフルエンザウイルス薬の備蓄量 約4,700万人分 (内訳) タミフル 約4,230万人分 リレンザ 約512万人分
リレンザ	9月末時点の備蓄量 国備蓄 約268万人分 都道府県備蓄 約244万人分	<ul style="list-style-type: none"> * 通常流通分の在庫状況を踏まえて、行政備蓄用抗インフルエンザウイルス薬を迅速に供給する。
迅速検査キット		
(15社 16製品)		
約2,899万回分		
(8月~3月生産分)		
H20年 8月 21万回分 → H21年 301万回分 9月 159万回分 → 348万回分 10月 157万回分 → 498万回分		
<ul style="list-style-type: none"> ・各メーカーへの増産要請に伴い、各社とも5月以降増産を行っており、8月以降の供給量としては前年(1300万回分)の2.2倍の生産を行うこととしている。 ・他の製品の生産に支障を来す場合もあるが、製造販売業者の最大生産能力は月産約750万回分であり、各メーカーでは、現在、最大生産体制に向けて製品の部材の確保について検討を進めているところ。 ・なお、迅速検査キットの有効期間(6~24ヶ月)は短く、メーカーとしては造り置くことが困難な商品である。 		

新型インフルエンザ対策関連物資の供給計画及び対応状況②

インフルエンザ関連医療資材	今シーズン供給計画	現在の対応状況
マスク		
サージカルマスク (一般向け不織布を含む)	約27,000万枚 (9月以降の月産数)	<ul style="list-style-type: none"> 各メーカーとも4月末以降増産を行っており、9月以降においても、月産生産数は2.7億枚を生産供給することとしている。 (医療機関向け 7000万枚/月、薬局・薬店向け 約20000万枚/月)
消毒薬		
(18社 全て国内生産) *9月以降の生産計画は調査中	約1,600万本 (500ml換算) (9月～4月生産予定分)	<ul style="list-style-type: none"> 各メーカーとも新型インフルエンザの国内発生以降増産を行っており、9月以降の供給量としては前年(500ml換算約400万本分)の4倍の生産を行う予定としている。 消毒薬の容器等の部材には、輸入に依存している部品があり、各メーカーでは部材の確保を進めているところ。部材等の入荷後は直ちに製品化のうえ、出荷している。 また、メーカーではポンプ等の既存容器の使用継続をユーザーに要請し、詰替用製品による対応をお願いしている。
人工呼吸器		
(12社 うち、輸入は10社) (10月1日現在)	医療機関が保有している台数 32,586台 全稼働台数(注) 16,316台 ※鹿児島県については調査中 この他、H20年度補正で H20年度 666台整備 H21年度 704台整備 (合計 1,370台整備)	<ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省として、今後さらなる整備を推進
(注)平成21年9月1日～4日までの任意の一時点において、実際に呼吸管理に用いていた人工呼吸器の台数		

サーベイランス／広報

現行のサーベイランス体制

急速に感染が拡大する情勢にあるため、感染拡大の端緒把握を重点に置く体制から、重症患者、死亡者の把握並びにウイルス性状の変化の探知に重点を置く体制に移行。

以下の3つのサーベイランスの中で、特に(1)のサーベイランスに重点を置いて実施。

- (1)重症化及びウイルス性状変化の監視のためのサーベイランス
(ウイルス・サーベイランス(約500定点)及び入院サーベイランス(全医療機関))
- (2)地域における全体的な発生動向の把握のためのサーベイランス
(インフルエンザ・サーベイランス(約5,000定点))
- (3)感染拡大防止につなげる集団発生の把握(クラスターサーベイランス)

広報の積極的展開

- 全国民を対象として、感染予防のための基本メッセージの着実な伝達。
(手洗い、うがい、罹患した際の咳エチケットや外出自粛など)
- 基礎疾患等をお持ちの方々への注意喚起を継続。
(インフルエンザ様症状が生じた際の早期受診・早期治療など)
- 国民の相談に対する適切な情報提供体制を構築し、的確な行動を促進。
- 今後とも、厚生労働省ホームページや政府広報を活用して情報提供を実施。
また、患者会組織を通じて、基礎疾患をお持ちの方等への情報提供を強化。